

『東京百年史』第二卷・第四編・第二章の「企業の勃興と労働者の登場」に、弾直樹の製革製靴事業について触れた部分があり、明治初年の靴生産の数字も垣間見られるので、先ず転記しておきたい。(1,287頁)

明治7年・靴と皮革の主産地

順位	靴		各種皮革	
		円		円
第1位	京都府	48,126	大阪府	140,277
第2位	東京府	47,515	飾磨県	94,426
第3位	和歌山県	9,589	兵庫県	59,244
第4位	大阪府	8,021	白川県	11,764
第5位	堺 県	2,312	京都府	10,615

図表には以下のような注釈があるので、併せて読んでいただきたい。

「(明治7年『府県物産表』より作成、同史料には、東京での皮革生産額が記されていないが、明治5年『東京府志料』の数値からみて、本表中の白川県ないし京都府程度の生産額は、あったものと推定される)」とある。しかしそれにしても、靴の生産量が、東京府を抜いて京都府が一位というのは、何とも解せない。私の知る限りでも、『明治九年東京府統計表』の「靴製造業・西村勝三」の項に「生産数量14,429足・金額85,438円28銭」と西村勝三社だけで売り上げているから、当時大企業である西村勝三の造靴場や、弾製靴場の数字が、反映されていなかったように思えてならない。明治初年のその頃は、まだまだ「下駄」や「草履」の万能の時代、「生産量120万足」とあったのを、いまでも印象深く覚えている。

同頁に、私のために調査をしていただいたような、浅草地区だけの皮革類生産額が、表記されているので、これ幸いと「皮革製

造」と「靴」の項目だけに絞り、抜き書したのでご覧いただきたい。

明治初年・浅草亀岡町の皮革類生産額(明治5年)

	製造皮革	靴
亀岡町 1丁目	2,150枚 (2,907円)	29,865双 (30,731円)
2丁目	6,270 (8,477)	29,850 (30,716)
3丁目	3,780 (5,111)	25,485 (26,224)

弾工場あつての地場産業、工業団地で、町内全体が、家内工業的な下請け制度で、確立されていたのであろう。こんなかたちの集計表を見ると、弾直樹の製革製靴場周辺が、おぼろげながら、見えてくるような気がする。



明治17年発行の西村勝三・桜組の『製靴カタログ』より